

1. 序論

色には様々な働きがあり、その働きの中に興奮感や沈静感のような心理効果をもたらすことが知られており、暖色系は興奮感を与え、寒色系は沈静的な印象が強く働くと言われている。そこで家や自分自身の部屋の色に目を向けてみると、特に自分自身の部屋は落ち着くことができる空間として落ち着く色が使われていると考えられる。しかし、そこには必ずしも沈静色が使われているとは限らない。そこで人の色に対する嗜好を客観的評価（脳波）と主観的評価（アンケート）の両面から比較し、色の生理的な作用について知見を得ることを目的とした。

2. 実験方法

先行研究から簡易脳波計を用いた実験により有益な情報が得られており、本研究では心理的嗜好を判定する目的で NeuroSky 社の簡易脳波計 MindWave Mobile ヘッドセットを使用した。この簡易脳波計は Bluetooth でスマートフォンと接続し、Visualiser というソフトウェアを用いて脳波を評価することができる。実験では、被験者の視界全体を一色にするために VR ゴーグルを使用した。表示色は赤、橙、黄、緑、青、茶、紫、桃、白、黒の 10 色とした。感覚的嗜好を判定する目的で併せてアンケートを実施した。



図 1. 実験風景

3. 結果と考察

全体の結果（全実験 45 回：被験者 15 人×3 回/人）から突出して落ち着く色は見出せなかった。落ち着く色、興奮色の順位は図 2、3 のグラフのような結果になった。黒は興奮色として 1 位、落ち着く色としても 2 位という結果になった。暗がりに対する適応性の違いによると考えられ、本実験では VR ゴーグルを用いて視野全体を一色にしてい

るため、明暗が心理的な作用によって脳波に影響したのではないかと考えられる。

落ち着く色の 1 位は緑であった。興奮色としては 1 回のみを検出されていることと考え合わせると緑は多くの人に落ち着きをもたらす色であると考えられた。一般的に落ち着くとされる色の特徴として低明度、低彩度が挙げられる。今回使用した緑は比較的低彩度であったため、落ち着く色という結果になりやすかったのではないかと考えられる。

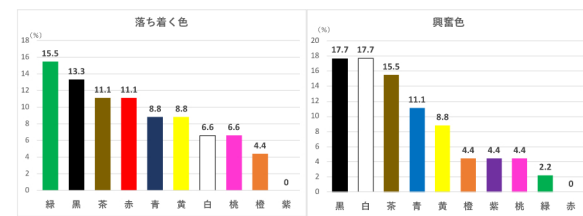


図 2. 脳波からみた落ち着く色

図 3. 脳波から見た興奮色

被験者各個人の結果を、アンケートで回答した好きな色、嫌いな色と比較すると、暖色系を好きだと回答した人は暖色系が落ち着く色、寒色系が好きだと回答した人は寒色系が落ち着くという傾向が認められた。

落ち着く色には傾向が見られたが、興奮色の結果は 3 回とも結果の色が異なることがほとんどであったことから、個人あるいは、共通の興奮色を見つけることは今回の脳波の結果からは難しいと考えられた。また、自分自身が落ち着くのではないと思う色と実際脳波から見た落ち着く色は必ずしも一致していないと考えられる。

4. 総括

好きな色、即ち感覚的に好む色を見ると人は生理的に落ち着くのではないかと考えられる。そして私自身も本実験を行ない、好きな色は青で心理的に落ち着く色も青となった。

本研究の結果を反映させ、大学 4 年間の集大成として青色を使ったドレスを制作した。

謝辞

作品制作を行うにあたり終始熱心にご指導を頂いた榎本春榮先生に心よりお礼申し上げます。

